



少女  
アイの場合

「このだ」訪ねた、呼ばれた。  
、「生活す」に。た。接いわ  
て年電。ま。時。た。き。得。病。直。言。撮。影。の。覚。せ。い。た。  
し3の。て。ま。1。た。き。帰。て。説。な。い。を。ら。と。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
を。校。ら。っ。い。1。い。て。に。っ。か。の。経。は。な。断。面。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
話。学。か。や。て。夜。て。っ。時。帰。と。と。神。に。ら。の。の。断。面。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
の。中。ん。一。っ。の。た。っ。帰。2。て。何。こ。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
女。じ。さ。ナ。や。日。っ。待。は。の。せ。る。脳。と。ら。を。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
少。同。母。ン。も。」の。か。を。女。中。さ。て。」治。が。度。た。C。T。を。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
の。と。お。シ。剂。そ。な。り。彼。夜。ン。し。た。ん。と。用。二。っ。を。撮。り。ま。し。た。回。の。覚。せ。い。た。  
人。ち。の。い。い。い。帰。、が。プ。を。し。ゃ。う。」乱。は。や。て。C。T。の。脳。ア。少。暴。、な。い。ん。だ。」  
一。た。女。子。せ。い。で。に。の。時。子。ン。話。ま。ち。使。？の。系。回。っ。て。ン。者。事。れ。日。5。中。た。に。雑。理。な。金。っ。4。ン。ち。夫。な  
う。君。少。の。覺。さ。ま。家。女。2。の。プ。で。し。イ。回。か。回。經。1。行。っ。し。高。っ。呼。月。ち。イ。の。れ。せ。の。修。金。う。売、コ。た。丈。し  
い、の。ち。だ。家。は。彼。の。女。い。ま。得。ア。一。る。1。神。は。に。い。の。高。っ。呼。月。ち。イ。の。れ。せ。の。修。金。う。売、コ。た。丈。し  
と。前。人。う。す。く。の。女。で。中。の。匂。朝。説、か。回。や。物。院。て。月。の。困。と。7。た。ア。ダ。う。5。ら。イ。吸。、ラ。イ。は。大。ば。妊  
イ。年。一。、で。て。女。彼。人。夜。生。の。を。て。い。な。わ。1。腦。藥。病。れ。ケ。台。に。中。の。輩。で。ラ。も。1。か。バ。一。劑。カ。ア。イ。は。大。ば。妊  
ア。5。は。生。3。け。彼。、二、年。一。女。っ。か。は。か。は。たら。に。連。3。歳。上。雜。年。先。件。カ。せ。ち。ち、ナ。い。！。て。ア。イ。は。大。ば。妊  
に。ら。に。先。中。助、し。と。て。3。ナ。彼。や。い。物。で。物。れ。か。緒。に。た。0。以。は。2。で。事。の。う。た。た。い。ン。せ。イ。し。も。を。で。学。う。て  
後。か。確。「「は。か。親。し。学。ン。は。う。い。薬。何。薬。壞。だ。一。院。っ。た。8。れ。イ。学。こ。の。私。ど。輩。輩。ア。シ。覺。ア。う。か。イ。外。中。言。う。べ  
最。今。正。母。母。母。私。し。母。そ。中。シ。私。こ。」「」「」「」病。たい。そ。ア。中。そ。そ。」「先。先。」「」そ。し。ア。と。す



ナヲ し、三馬行 男」た』  
いん 像 ねが ばび 半ら。ちんを 上で」 事派、てい」世ね行た  
てた 想 かよた 飛飛 前取 持た 頭の んる の、てっ なて のよにつ  
っつ を 師 くるん 段て 台縁。い はしの 手た れ イ好った や え 昼る界や た。  
なか 姿 医 来あ め2け kくたて でわ 私」。 のっく」ア格入っ じ 伝、な世く い。  
くな との の は、 止で開 0黒い 力這。、でう 私 言てるね でないか て らにのよ」 てた  
なれ 「イ 担当 日は、 をまと 2つて泣 のをす命いよ て。う いやよ 演手界で ん」っ かと夜、い」 っ  
れ入 うア。 担 明に た車室ン 、真見て 分上で懸なし けたこ 聞てる 講派世ん な！ ！ 界こ、んなる 行だ  
入。は こ、だ の、日 しに病一 は、をっ 自のん生かで かきが いや のての死 好とい 世てらやめや に日。  
にくに 行どん イ」生 明 まろのポ 。重唇顔せ 、ドた一滴の もてイ の聞演 てい夜、 格だ な のっかち頼て 院3た  
室い中 にくた アれ先な しこ階を た体の心の 時ツしで、た 分えア るも講 べが、で の心か 夜た界イかし 病1っ  
病ての いすっ 、く『や ばと5ブ っの黒僕を のべわ指生っ 何添、 あでも す子でん 目と」ん 、っ世アし話 に月あ  
、っ室 、会ら か 後て ち 飛たてノ かイっに顔 そを這小先だ もをら が何ら 、な粧し たい界な てあの『に部 う7が  
月わ病 はに走 辛 のっ、っ をれっア なア真うで う手てと、り 分手た い、か」生力化苦 見行世せ いが昼が生全 よは話  
4変て にイを。う 休や日 ち 車離切ド らた、そ脇 もいける子も 何なめ 願イれよ先バナで 、のの幸 間味て様先、 の電  
のんく 頃ア車たも 連て毎の で、っ、 なっけしの 、なかけいつ たうし おアこる、う手ズ は人嘘に 、意い神、イ 週たら  
年ど辛 の、にい、 の来ん 一番番突ず にあられド はれもづいる まよき 、、やあい派イ さ、は界 話た聞、とア 毎きか  
翌ん。 休そ院てが 月らちゃ 一一をえ 葉くだうツ 腕ら分近、い の抱 生よ生、やて、エ しは界世 のき、らこよ らが師  
がどた 連こ病つい 5かちち 朝の庭考 言近点がベ のげ何に子て ら枝を 先い先んじっ好、 美さ世な 私生話たない か日医  
私がつ の日のまな なむイイ、 場のも 、k斑目、 イ上も頭いっ か小手 「い」「う」「イ格れ のしのん 「でのっんい 日  
のイか 月今京しけ ん頼アア 日車院に も0中のは アち分のい言 このの イ「イ」「イアなさ 人美夜そ イ世私行こ」 の命当  
そア辛 5「東て情 そ」「 翌駐病何 で5体そ私 (持何私」と そそそ ア私ア私ア「手に 「」「」 アの「に」私 そ運担

「「」 医ピアだ体フ粧 で頭目 そ員みく 医 1 「そ「そア「「」 だ で9なモそ痛最発そ「と「 わ自悲

明2明 師ツイぼ中アも もなと うがんし 師 1 アし皆しイ おおお先 っ も月ぜ ルの い後作 んご医 よか分し

日々日 にクがだのンし 、で目 しそなて は 時イ てさて のとかね生 た アにかヒた だはがな 臨師 かるのさ

の月の 頼り選ば斑デて 会てを てろ一、 ち ちゃア い 後 ささちあ 。 イ規っ ネび ろ包起 中 終の っか愛

午後午 んしんの点一も っ泣く 夜っ緒、 そよ ちゃア い 後 ささちあ は定て のに っ帯き、 で一た いす

後眠前 でただ制はシラ たきっ がたで れ っ ンイ い のん さんやり 毛量、 効関 てとた ア す言 な？る

かる中 僕。最服若ヨっ 瞬、つ 明。す 以と、 がで モ言、んが ルのア 力節 肩タら イ」に あ 子

らよ、 は 後をいんて 間手け 。 上 前 お「す ル葉 ああ、と ヒモイ がが のオ、 は 、に

もう意 、 の看看とい、 握て、 頭、 そい みるん」ネ、 ががり」 ネルの 切抜 関ル抑 2 おア 死

ルに識 そ お護護おた 話っ泣 午を そい みるん」ネ、 ががり」 ととが 死ねは てるて をッて 前 さ、 や、 ね

ヒ亡が の 別師師し。 なてい 前 撫 の や し」っ が ととが 死ねは てるて をッて 前 さ、 や、 ね

をなっ の のさんい かき泣 時て 景 ち う 言 言 与 」う」 な打一 「く れとる 1 の っ、

投りき 夜 服ん4で で、い ち 泣 をよ かつ わ され かつ 生 ウん て毛こ 0 言と 楽 よ

与まり に 装が人唇 き最て よ き 見 っ」た れれ かつ 生 ウん て毛こ 0 言と 楽 よ

しすし ア はまとも な後、 っ、 てと と。 てま し た。 死、 ウ。 て体か 5 ” な っ た

すい の 好り一の っはき 前を らぎ 師 我々 も 「いよ」が とるな 明 こ な あ

ま」て イ 大つ、目 かに泣 と 手 い 過 医 、 し た。 死、 ウ。 て体か 5 ” な っ た

「「」 医ピアだ体フ粧 で頭目 そ員みく 医 1 「そ「そア「「」 だ で9なモそ痛最発そ「と「 わ自悲

生なた　　「　　」　　本界開でく。　　死き子さ！、いれめりた  
先れつ　　」　　日世を物多る。　　つのだすらやく求あ  
ら喋か　　」い　　のの口動も来　　山がそくでたちてはて  
すてな　　いた　　。と　　今夜なるで　　は　　沢像、をんいしけ」れた  
たけか　　なき　　た」　　、むき　　人　　日　　が想はずで連し子が、救て  
ひ　　抜い　　。く生　　っ。　　は住大生　　一　　。明　　生、　　ずで　　し　　子は、　　救　　て　　ま  
、　　がて　　うた、　　いの　　穴の　　ず　　で　　を　　す、　　ほ　　校て　　ま構　　に　　厳　　る　　ト　　「　　つい　　き  
て　　舌　　っ　　思　　にい　　で　　い　　たち　　必　　下　　。　　さ　　。　　でも　　で　　高見　　、　　結　　。　　私　　！　　い　　ッ　　出　　、　　一　　て　　は　　ぎ  
い　　も　　入　　と　　死　　た　　ん　　な　　ち　　た　　が　　の　　い　　辛　　る　　在　　て　　来　　い　　。　　を　　ち　　て　　す　　、　　い　　て　　力　　が　　け　　だ　　き　　日　　ご  
開　　でも　　た　　。　　き　　。　　死　　け　　落　　人　　穴　　陽　　さ　　の　　い　　辛　　い　　存　　く　　は　　な　　。　　生　　稿　　た　　っ　　で　　ら　　辛　　し　　ト　　き　　と　　た　　生　　明　　う  
見　　、　　て　　い　　て　　生　　す　　て　　い　　の　　大　　の　　太　　な　　そ　　が　　い　　辛　　日　　め　　。　　学　　投　　供　　頼　　構　　な　　は　　を　　ス　　動　　え　　。　　と　　、　　と  
と　　う　　っ　　て　　け　　、　　で　　し　　や　　イ　　の　　そ　　は　　き　　、　　間　　し　　に　　明　　や　　中　　る　　子　　を　　結　　ず　　私　　ト　　リ　　に　　覚　　は　　い　　ば　　が  
っ　　ろ　　や　　っ　　助　　い　　の　　を　　き　　ア　　種　　、　　人　　い　　も　　人　　ら　　な　　、　　。　　ら　　い　　た　　私　　て　　た　　「　　ッ　　」　　り　　ち　　の　　さ　　れ　　り  
か　　だ　　て　　言　　、　　たい　　目　　な　　、　　る　　は　　、　　て　　て　　る　　ば　　ん　　ば　　は　　か　　て　　い　　ず　　っ　　立　　で　　力　　！　　周　　た　　む　　だ　　い　　あ  
を　　ん　　れ　　て　　て　　き　　な　　た　　な　　け　　あ　　に　　来　　き　　く　　れ　　す　　ど　　れ　　け　　。　　れ　　来　　聴　　ま　　頼　　役　　ろ　　ト　　な　　ず　　供　　望　　く　　え　　も  
目　　た　　入　　何　　け　　生　　れ　　い　　死　　と　　、　　元　　本　　生　　辛　　く　　い　　、　　い　　だ　　す　　こ　　に　　を　　、　　を　　が　　こ　　ス　　す　　必　　子　　が　　て　　さ　　う  
、　　っ　　を　　、　　助　　、　　ら　　驚　　が　　え　　が　　足　　、　　で　　が　　て　　し　　か　　え　　と　　ま　　ら　　ろ　　話　　は　　生　　生　　と　　り　　隠　　ば　　、　　私　　い　　て　　ど  
ね　　か　　舌　　目　　、　　て　　き　　、　　私　　覚　　ち　　の　　い　　下　　今　　け　　さ　　す　　さ　　こ　　い　　が　　こ　　の　　き　　先　　先　　な　　で　　に　　れ　　い　　に　　て　　き　　、  
は　　た　　ら　　の　　生　　け　　生　　は　　で　　な　　た　　ち　　か　　の　　に　　助　　や　　で　　て　　る　　思　　な　　と　　私　　と　　の　　の　　ん　　中　　対　　す　　か　　ち　　き　　生　　は  
イ　　り　　く　　イ　　先　　助　　も　　イ　　何　　ん　　前　　た　　い　　陽　　か　　ず　　は　　い　　き　　き　　う　　念　　の　　も　　い　　り　　り　　ろ　　の　　絶　　う　　い　　た　　生　　だ　　日  
ア　　喋　　い　　ア　　「　　「　　で　　ア　　「　　み　　お　　前　　い　　太　　い　　必　　人　　い　　生　　生　　そ　　残　　私　　で　　辛　　周　　周　　い　　こ　　“　　そ　　い　　君　　「　　た　　今